

# 大阪府におけるエイズ発生動向

平成27年（2015年）1月1日～12月31日

大阪府健康医療部保健医療室

# 目 次

## 平成27年（2015年）のエイズ発生動向

1	概要	P 1
2	総括	P 2
表 1	2015年に報告されたHIV感染者及びAIDS患者の内訳と前年の比較	P 3
表 2	2015年末現在のHIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染経路別累積報告件数	P 5
表 3	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性別年次推移	P 6
表 4	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、感染経路別年次推移	P 7
表 5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染経路別年次推移	P 8
表 6-1	HIV感染者の国籍、性、年齢階級別年次推移	P 9
表 6-2	AIDS患者の国籍、性、年齢階級別年次推移	P 10
表 7	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性、感染場所別年次推移	P 13
表 8-1	異性間性的接触で感染した日本国籍男性HIV感染者及びAIDS患者の年齢階級、感染場所別年次推移	P 14
表 8-2	同性間性的接触で感染した日本国籍男性HIV感染者及びAIDS患者の年齢階級、感染場所別年次推移	P 14
表 8-3	異性間性的接触で感染した日本国籍女性HIV感染者及びAIDS患者の年齢階級、感染場所別年次推移	P 15
表 8-4	異性間性的接触で感染した外国国籍男性HIV感染者及びAIDS患者の年齢階級、感染場所別年次推移	P 15
表 8-5	同性間性的接触で感染した外国国籍男性HIV感染者及びAIDS患者の年齢階級、感染場所別年次推移	P 16
表 8-6	異性間性的接触で感染した外国国籍女性HIV感染者及びAIDS患者の年齢階級、感染場所別年次推移	P 16
表 9	保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数	P 18
図 1-1	2015年に報告されたHIV感染者の感染場所と前年の比較	P 3
図 1-2	2015年に報告されたAIDS患者の感染場所と前年の比較	P 3
図 2-1	2015年に報告されたHIV感染者の性と前年の比較	P 4
図 2-2	2015年に報告されたAIDS患者の性と前年の比較	P 4
図 3-1	2015年に報告されたHIV感染者の感染経路と前年の比較	P 4
図 3-2	2015年に報告されたAIDS患者の感染経路と前年の比較	P 4
図 4-1	2015年末現在のHIV感染者の国籍、性、感染経路別累積報告数	P 5
図 4-2	2015年末現在のAIDS患者の国籍、性、感染経路別累積報告数	P 5
図 5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍、性別年次推移	P 6
図 6-1	HIV感染者の感染経路別年次推移	P 6
図 6-2	AIDS患者の感染経路別年次推移	P 6
図 7-1	HIV感染者（日本国籍・男）の年齢階級別割合	P 11
図 7-2	HIV感染者（日本国籍・女）の年齢階級別割合	P 11
図 7-3	HIV感染者（外国国籍・男）の年齢階級別割合	P 11
図 7-4	HIV感染者（外国国籍・女）の年齢階級別割合	P 11
図 8-1	AIDS患者（日本国籍・男）の年齢階級別割合	P 12
図 8-2	AIDS患者（日本国籍・女）の年齢階級別割合	P 12
図 8-3	AIDS患者（外国国籍・男）の年齢階級別割合	P 12
図 8-4	AIDS患者（外国国籍・女）の年齢階級別割合	P 12
図 9-1	日本人男性の性的接触種別（異性・同性）HIV感染者累積報告件数	P 17
図 9-2	日本人男性の性的接触種別（異性・同性）AIDS患者累積報告件数	P 17
図 10-1	日本人女性の性的接触種別（異性・同性）HIV感染者累積報告件数	P 17
図 10-2	日本人女性の性的接触種別（異性・同性）AIDS患者累積報告件数	P 17
図 11	保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数	P 18

## 平成27年（2015年）のエイズ発生動向

### 1 概要

#### (1) 発生の主な内訳（表1・表2）

- 2015年に大阪府域において報告のあったHIV感染者（以下「HIV」と省略）は168件で、前年に比べて12件の増加。AIDS患者（以下「AIDS」と省略）は53件で、前年と同数。
- HIV・AIDS報告数に占めるAIDS報告数の割合は、24.0%と昨年の25.4%に比べ減少している。
- 累計では、HIVが2,290件、AIDSが742件、計3,032件となった。

#### (2) 感染経路（表1）

- HIV 168件の感染経路を見ると、異性間性的接触が30件（17.9%）、同性間性的接触が124件（73.8%）、静注薬物使用が0件（0.0%）、母子感染が0件（0.0%）、その他が0件（0.0%）、不明が14件（8.3%）で、全体の約9割を性的接触による感染〔154件（91.7%）〕が占めている。前年割合と比べると同性間性的接触（81.4%→73.8%）、静注薬物使用（0.6%→0.0%）が減少、異性間性的接触（10.9%→17.9%）、不明（6.4%→8.3%）がそれぞれ増加し、母子感染（0.0%→0.0%）の報告はなかった。
- AIDS 53件の感染経路を見ると、異性間性的接触が8件（15.1%）、同性間性的接触が32件（60.4%）、その他が1件（1.9%）、不明が12件（22.6%）となっており、前年割合と比べると同性間性的接触（66.0%→60.4%）が減少し、異性間性的接触（13.2%→15.1%）は増加した。

#### (3) 国籍、性（表3）

- HIV 168件の国籍、性別を見ると、日本人男性が151件（91.3%）、日本人女性が5件（1.7%）、外国人男性が12件（7.0%）、外国人女性が0件（0.0%）であった。前年割合と比べると日本人男性（94.9%→89.9%）が減少し、日本人女性（2.6%→3.0%）、外国人男性（2.6%→7.1%）は増加している。
- AIDS 53件の国籍、性別を見ると日本人男性が53件（100%）であった。

#### (4) 年齢階級（表6-1・表6-2）

- HIV 168件の年齢階級を見ると、15～19歳が1件（0.6%）、20～24歳が20件（11.9%）、25～29歳が29件（17.3%）、30～34歳が33件（19.6%）、35～39歳が25件（14.9%）、40～44歳が29件（17.3%）、45～49歳が22件（13.1%）、50～54歳が3件（1.8%）、55～59歳が2件（1.2%）、60歳以上が4件（2.4%）となっており、20歳代～30歳代で全体の64%〔107件（63.7%）〕を占めている。
- AIDS 53件の年齢階級を見ると、20～24歳が1件（1.9%）、25～29歳が4件（7.5%）、30～34歳が6件（11.3%）、35～39歳が8件（15.1%）、40～44歳が9件

(17.0%)、45～49歳が9件(17.0%)、50～54歳が8件(15.1%)、55～59歳が4件(7.5%)、60歳以上が4件(7.5%)となっており、40歳以上で全体の64%〔34件(64.2%)〕を占めている。

#### (5) 感染場所(表7)

- HIV 168件の感染場所を見ると、国内が148件(88.1%)、海外が5件(3.0%)、不明が15件(8.9%)となっており、例年どおり国内での感染が多い。
- AIDS 53件の感染場所を見ると、国内が40件(75.5%)、海外が0件(0.0%)、不明が13件(24.5%)となっており、例年どおり国内での感染が多い。

## 2 総括

- HIVの報告は、168件と昨年より12件(前年比7.7%)増加している。168件を感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が114件(67.9%)と依然高いが、前年123件(78.8%)に比べると減少している。次いで日本人男性の異性間性的接触26件(15.5%)となっており、前年13件(8.3%)に比べると増加している。  
また、少数ではあるが、日本人女性の報告数が増加傾向にある。
- AIDSの報告は、53件と引き続き横ばい傾向のまま高止まりしている。53件を感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が32件(60.4%)と最も高くなっている。
- HIV・AIDS報告数に占めるAIDS報告数の割合は、24.0%と昨年の25.4%に比べ減少している。一方、AIDS報告数は減少しておらず、特に50歳以上では、HIVよりAIDSの報告数が多くなっている。
- 2015年の保健所等におけるHIV抗体検査件数は、16,763件と前年に比べ減少しているが、陽性の件数は98件と直近5年間で最も多くなっている。引き続き個別施策層(※)や中高年層への啓発、検査体制の充実により、HIV感染の早期診断を促進する必要がある。
- また、社会のHIV感染症への関心の低下が懸念される中、新たな感染拡大防止のために、特に若者層への正しい知識の普及啓発を継続して実施する必要がある。

※個別施策層：感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために、施策の実施において特別な配慮を必要とする人々